

## 審査の結果の要旨

氏名 端本 昌夫

本研究は成人生体肝移植において重要な細菌感染症の原因と考えられる MRSA について、まだよくわかっていない3つの問題：1) 成人生体肝移植後の MRSA 感染症の発生率とその危険因子；2) 成人生体肝移植後の MRSA 保菌の発生率とその危険因子；3) 術前 MRSA 非保菌者における成人生体肝移植後の MRSA 感染症の発生率とその危険因子、を後ろ向きに検討したものであり、下記の結果を得ている。

### 1. 成人生体肝移植後の MRSA 感染症

成人生体肝移植において移植後の MRSA 感染症は 242 例中 25 例(10%)の患者に発生し、発生時期は中間値で移植後 23 日目であった。移植前の MRSA 保菌、移植前の抗菌剤の使用、長い手術時間(16 時間以上)、移植後の透析および血漿交換が、その独立した危険因子であった。

### 2. 成人成体肝移植後の保菌

移植後の新規 MRSA 保菌は 158 例のうち 35 例(22%)の患者に認められ、MRSA 保菌の獲得時期は中間値で移植後 18 日目であった。高齢(60 歳以上)、移植前・後の透析および血漿交換がその独立した危険因子であった。

### 3. 移植前 MRSA 非保菌者における成人成体肝移植後の MRSA 感染症

移植後の MRSA 感染症は 219 例のうち 18 例(8%)の患者に発生し、発生時期は中間値で移植後 26 日目であった。移植後の新規 MRSA 保菌と長い手術時間(16 時間以上)がその独立した危険因子であった。

以上、本論文は成人生体肝移植における MRSA の保菌と感染症の発生率、危険因子を明

## [課程-2]

らかにした。本研究は、これまで明らかでなかった成人生体肝移植における MRSA の保菌と感染症の高危険群を把握に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。